

トウキ葉茎部ようけいぶを添加した養鶏用飼料の効果

畜産試験場 養鶏研究所

研究のねらい

県内で栽培が奨励されているトウキは主に高野町の富貴地区で生産されています。このトウキの根は漢方薬として使われていますが、葉、茎は有効に利用されていませんでした。そこで、このトウキ葉茎部を鶏用の飼料としての有用性、有効利用について検討しました。

研究の成果

トウキ葉茎部乾燥、粉碎し、70日齢から養鶏用試料に0.5%添加、150日齢から510日齢までの成績において産卵成績の向上、卵質、卵殻質の向上、など鶏卵生産に有利な結果が得られ、2005年3月4日特許出願を行いました。

- 1) 血液検査により、血液内 GOT の減少が認められました。
- 2) 血液検査により、Ca 濃度増加が認められました。
- 3) 褐色卵の卵殻色が濃くなりました。(図1)
- 4) 規格外卵が減少しました。
- 5) 季節に関係なく産卵率が向上しました。(図2)

成果の活用面・留意点

現在、県内の飼料製造業者がこの技術を使い、養鶏用飼料「トウキ葉」の生産をはじめました。また、今後、この飼料を活用したブランド卵も生産される予定です。

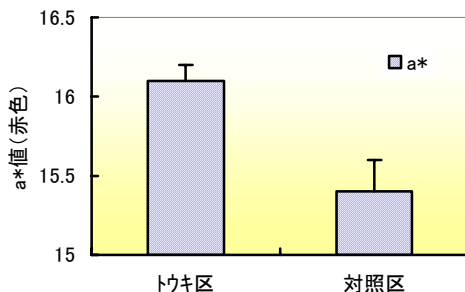


図1 トウキ添加区と対照区の卵殻色

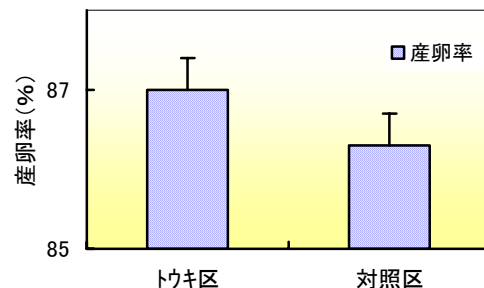


図2 トウキ添加による産卵率向上

(問い合わせ先：0738-54-0144)